

読者ひろば

差別語り継ぐ 療養所の資料

高谷和生⁶²

|| ボランティアガイド
(玉名市)

7月中旬、猛暑の中、鹿児島県鹿屋市にあるハンセン病療養所「星塚敬愛園」を訪れた。昭和10年、大隅半島中部の台地に開園。ヒノキと有刺鉄線に囲まれ、昭和18年には最大で1347人が収容されていた。

らい予防法が胎児の命を奪った事を後世に伝える慰霊碑前で、実兄が菊池恵風園で生活しているという入所の女性にお会いした。「横にそびえるオガタマノキが、入所の頃からすると随分と大き

くなった」「時間に追われず、穏やかに暮らし、生きたい」等、今の気持ちを語ってくれた。

また、園内には社会交流会館とともに、西本願寺鹿児島別院等からの寄付金を受け、入所者の奉仕作業で造られた「初代納骨堂」が巨大な崖面にうがたれ、終生出ることができなかった園の歴史を無言で語っていた。近年、全国のハンセン病療養所では、地域啓発のための社会交流会館が相次ぎ開設されている。現在14カ所で、将来は全療養所に設けられるという。

良田教室建物が残され、同員の「邑久光明園」にも監禁室が修復復元されている。展示資料やこれらの歴史的建造物は、各療養所の固有の歴史を伝え、入所者の多くの思いが詰まったものであり、差別実態と人間回復の道のりを、将来に長く語りつぐ歴史資料でもある。

合志市の「菊池恵楓園」の監禁室、熊本市のリデル、ライト両女史記念館は熊本地震の影響で見学ができない。ハンセン病問題を身近に捉え、差別の実態を感性から心に刻み、歴史資料から論理的に思考する学びが継続できるよう、一日も早く公費での復旧をお願いしたい。

「読者ひろば」への一般投稿、若者コーナーは450字程度、主張・提言は600字程度。欄外に郵便番号、住所(アパート・マンション名も)、氏名、年齢、職業(無職の方は元職でも可)、電話番号を明記する。趣旨を変えず文章を直すこともあります。原稿は返却しません。二重投稿、採否の理由等の問い合わせはお断りします。匿名は不採用です。掲載分には薄謝を送ります。

投稿される方へ

◇モノクロ作品募集 「私の一字」好きな文字一字を書き、その理由も。「モノクロギャラリー」イラスト、墨絵、写真など。題材自由。作品は、はがき、封書、ファクス、メールで。作品は返却しません。あて先は①郵送〒860018506、熊本市中央区世安町172、熊日「読者ひろば」係②ファクス 096(363)1268③Eメール hiroba@kumanichi.co.jp